

## 政策調整会議の概要

開催日：平成 21 年 1 月 22 日（木）

### 項目

- 1 平成 20 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について【教育委員会】
- 2 平成 20 年中の県内の治安情勢と平成 21 年高知県警察重点目標について【警察本部】

### 内容

- 1 平成 20 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について【教育委員会】

#### 【説明概要】

- ・文部科学省が実施した「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は、全国の小学校 5 年生と中学校 2 年生を対象にして、4 月から 7 月にかけて実施された。
- ・実技調査では、それぞれ 8 種目（ ）を実施したところ、本県の児童生徒は、小学生のソフトボール投げ以外は男女とも全国平均を下回っているという厳しい結果となった。

小学校 5 年生...握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校 2 年生...握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子 1500m、女子 1000m）、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ハンドボール投げ（持久走とシャトルランはどちらかを選択）

#### 【主な意見】

- ・今回の結果は、全国レベルの大会などを見ていたら、ある程度想定されたことと思うが、原因究明や対策は今後どうするのか。

授業を充実することを考えている。体育の専科の先生が小学校は非常に少ない。また、45 分の授業時間の中で、生徒が動く時間が少ないことが多いため、現在、能率の良い授業ができるような指導案を作成しようとしているところである。小学校では授業の充実のほか、外で遊んでもらうことで体を動かす喜びを知ってもらえるような取り組みを、中学校では運動部活動への外部指導者の導入などを考えているところである。

- ・一般的に大都市部は体力が低く、小さな町村では体力が高いという報道もされていたが、それであれば、高知県は高くなければならないのではないかと。（副知事）

高知県でも、郡部の小規模な学校で、非常に高い子がいる。先生がてこ入れして、充実した取り組みをしてきたのではないかとと思われる。

- ・学力調査でも上位であった秋田県が上位にある。何か関係があるのか。

そこまでは分析をしていない。国からもらった細かいデータは、今後専門家を入れて分析をしていきたい。また、普段の生活習慣も考えていかなければならないのではないかとと思う。

- ・小規模な学校の方が体力が高いのであれば、学校教育以外に体力をつける要素があるのではないかと。ただ教員を増やす対応というのは少し違うのではないかとと思うので、それは分析をしないといけない。（副知事）基礎体力は、学校教育の中で指導する面と日常生活の中での生活習慣の両面があるため、どこにてこ入れをしていったらいいのかということ、専門家を交えて分析し、対策を打っていきたい。

- 2 平成 20 年中の県内の治安情勢と平成 21 年高知県警察重点目標について【警察本部】

#### 【説明概要】

- ・平成 20 年中の刑法犯は、発生件数自体は減っている。窃盗犯が一番多く 8 割近くを占めているが、その中で

も約7割が高知署、高知南署、南国署管内で発生しており、警察署再編計画を行っていく一つの理由となっている。

- ・振り込め詐欺は、約160件、被害金額が約1億7000万円と非常に多かった。
- ・強盗、強姦、殺人、放火などの凶悪犯は52件発生し、そのうち高知署、高知南署が約5割を占めている。
- ・侵入盗、自動車盗、ひったくり、スリなど、身体や財産に大きな影響を及ぼす重要窃盗犯は高知市内周辺で536件であった。前年に比べて、侵入盗や自動車盗は減少し、ひったくりやスリが非常に増加している。
- ・交通事故で亡くなられた方は57名となっており、県警で集計を始めてから2番目の少なさではあるが、高齢者の交通事故が多いため、老人クラブ向けに高齢者アドバイザーによる講習を行うなどの対策を行っている。
- ・交通死亡事故は、月別では6月と12月に、時間別では視認性が悪い朝方と夕方に多く発生している。また、四輪に乗っていて亡くなられた方26名のうち、シートベルト着用者が13名、非着用が13名であったが、非着用者のうち6名はシートベルトを着用していたら助かっていたとみられる。

#### 【主な意見】

- ・刑法犯の地域偏在の傾向は強まっているのか。また、大豊町で高齢者に対する刑法犯罪があったが、高齢者が多い地区では対応しにくい状況が起こっているのではないかと思うが、どう対応していくのか。  
警察官は1,564名いるが、警察の力だけでは守りきれない。地域の方、市町村の皆様方、関係機関を集めて対応しないと守りきれない状態になっている。高知市周辺での刑法犯は人口が集中をしてきている中、今後とも増加するであろうと認識をしている。警察署再編を考えていくほか、各市町村では、各首長がトップとなった地域安全協議会による講義を行うなどの対応をしてきているところである。
- ・交通事故加害者のうち高齢者の割合はわかるのか。  
高齢者の加害者は多くなってきている。なお、道路交通法の改正により、今年から認知症検査が入ってくることになっており、認知症の方には免許を与えないことになる。  
また、高齢死者のうち、老人クラブの未加入者は8割を占めており、老人クラブへの講習以外にも、高齢者に対する交通安全に関する講習等をする必要があることから、昨年は、国道沿線の高齢者宅を戸別訪問するといった作業を進めた。
- ・そのような戸別訪問による指導者として、緊急雇用対策を活用して、失業者を雇用していくことがよいのではないかと思う。(副知事)